

イスラエルの人々⑧

□イスラエルの人々の信仰の手本

心を動かされた者、霊に促しを受けた者はみな、会見の天幕の仕事のため、そのあらゆる奉仕のため、また聖なる装束のために、主への奉納物を持って来た。(出35:21)

イスラエルの子らは男も女もみな、主がモーセを通して行うように命じられたすべての仕事のために、心から進んで献げたのであり、それを進んで献げるものとして主に持って来た。(出35:29)

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。土地の約束、子孫の約束、祝福の約束である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。

- (1) 土地の約束と子孫の約束を通してアブラハムは復活信仰に導かれた。
- (2) 祝福の約束は、アブラハムの子孫(メシア)によって全人類に神の祝福がおよぶという約束。その祝福の中核は「復活」である。

2. アブラハム契約は、アブラハムから、子のイサク、孫のヤコブへと継承された。ヤコブの子孫であるイスラエルの人々は、エジプトで増えて一つの民族としての規模にまでなったが、エジプト王に仕える奴隷の民となってしまった。神はアブラハム契約に基づき、モーセを遣わして人々をエジプトから救出した。

3. イスラエルの人々

- (1) 紅海を渡る・・・イスラエルの人々は、神を信頼する信仰によって、右と左に水の壁を見ながら、紅海を渡った。
- (2) 律法授与の準備・・・シンの荒野。エジプトを出てから1か月、手持ちの食糧は尽きた。主は、六日間マナを降らせ、六日目には二日分のマナを与えた。これは、七日目を休ませる、という生活ルールをイスラエルの民に体験させ、安息日の規定をもつ律法を授与するための準備でもあった。以降、マナで養われる。
- (3) 水の供給・・・レフィディム。飲み水がなく、民がモーセと争うと、主はモーセに命じて、民の目の前でホレブの岩を杖で打たせた。すると岩から水が出て、民はそれを飲んだ。このホレブの岩は、受肉前のキリスト(Ⅰコリ10:4)。以降、この岩が民についてきて、荒野で宿営する民に飲み水を供給。
- (4) 律法授与(シナイ契約、モーセの律法)・・・
 - ① 第三の月の第一日にシナイの荒野に入った。三日目に主は、シナイ山に降りて来られて主の栄光を民に見せ、民は神への正しい恐れを示した。

- ② 主は民に直接、いわゆる「十戒」を語り聞かせた。偶像を造ったり拝んだりしてはならないことや、安息日を守ることなどの10項目の命令。そして主はモーセを通して、十戒以外のもろもろの律法の定めを聞かせた。
- ③ 主はモーセに律法を書かせ、翌朝、あらためてそれを民の前で読ませてから、イスラエルと契約（シナイ契約、モーセの律法）を締結した。エジプトを出てから、ちょうど50日目。
- ④ 主はシナイ山の中腹に長老70人を招いて、契約の食事までしてくださった。
- (5) 金の子牛事件・・・イスラエルの民が主との契約を破った
 - ① 契約の食事の後、主はモーセにシナイ山の中腹から上に登るように命じた。モーセは40日間山にいて、主から、**幕屋の製作について詳しい指示**を受け、安息日の規定の目的と罰則についても命令を受け、そして十戒を記した石の板2枚を授かった。
 - ② その間、ふもとでは民が金の子牛事件を起こしていた。契約は破られた。
 - ③ そのことをモーセは山の上で主から聞き、主が「イスラエルを滅ぼし、あらためてモーセから新しい民を起す」と言われたことに対し、モーセはアブラハム契約の約束に基づいてとりなしをした。
- (6) 40日間のとりなし・・・
 - ① モーセは下山し、事件の後処理。
 - ② 翌日、また山に登って民のためにとりなす。主は、モーセに民とともに約束の地に行くように命じるとともに、「わたしの使いがあなたの前を行く」、「しかし、**わたしは、あなたがたのただ中であっては上らない**。あなたがたはうなじを固くする民なので、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼしてしまわないようにするためだ」と言われた。
 - ③ 下山して宿営の外に会見の天幕を張り、毎日主の前にひれ伏してとりなす。この間、宿営の中にいる民は、会見の天幕に向かうモーセを見送り、雲の柱が天幕の入り口に立つのを見ると、民はみな立ち上がって、それぞれ自分の天幕の入り口で伏し拝んだ。モーセのとりなしは40日間に及んだ。
- (7) モーセ再び40日間、山に。主が再契約して下さる・・・
 - ① モーセは山に登る前に、主に4つの願いをした。
 - 1. 「主の使い」とはだれか、教えてください。
 - 2. どうか、あなたの道（律法、生活ルール）を教えてください。主の目には「みこころにかなっている」という立場を与えられた私が、主のみこころを知り、実際にも、みこころにかなうようになるために。
 - 3. **どうか、あなたご自身が私たちと一緒に行ってください。**
 - 4. あなたの栄光を私に見せてください。
 - ② 主の答え

1. 「わたしの顔がともに行き、あなたを休ませる」 ⇒ 第二位格の子なる神、受肉前のイエス。イエスを見るなら父なる神を見る
2. 「前のものと同じような二枚の石の板を切り取れ。わたしはその板の上に、この前の石の板にあった、あのことばを書き記す」 ⇒ 再契約
3. 「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう」 ⇒ 主がイスラエルの民の宿営のただ中におられるようにするために、幕屋が必要。よって、幕屋の製作へとつながる
4. 主の回答は次の3点
 - (ア) 「わたし自身、わたしのあらゆる良きものをあなたの前に通らせ、主の名であなたの前で宣言する。わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ」
 - (イ) 「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである」
 - (ウ) 「(山の上で) わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れる。わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておく。わたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は決して見られない」
- ③ モーセが山に登ると、主がモーセの前を通り過ぎた。モーセが主にいっしょに行くことを求めると、主はイスラエルの民と契約を結ぶと言われた。そして、モーセが持参した石の板二枚に、再び十戒が書き記された。モーセは40日間、山にいたあと、石の板を持って下山した。

□イスラエルの人々の信仰⑧ 幕屋の製作（第七の月【10月】から第十二の月【3月】）

1. 幕屋とは、どういうものか ⇒ 6ページ 聖書歴史地図より
2. 作業に入る前に、安息日の命令を守り、七日目は休むべきことを確認（出 35：1～3）
3. 幕屋製作の材料を献げる人・製作に従事する人について、主の命令（出 35：4～19）
（シナイ山上でモーセに命じられた内容と同じ 出 25：1～7）

出 35：5～9 あなたがたの中から主への奉納物を受け取りなさい。すべて、進んで献げる心のある人に、主への奉納物を持って来させなさい。すなわち、金、銀、青銅、青、紫、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、ともしび用の油、注ぎの油と、香り高い香のための香料、エポデや胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石である。

出 35：10 あなたがたのうち、心に知恵ある者はみな来て、主が命じられたものをすべて造らなければならない。

4. 主の命令に民が応答して、材料や紡いだ糸などを献げた（出 35：20～29）

出 35：21 心を動かされた者、霊に促しを受けた者はみな、会見の天幕の仕事のため、そのあらゆる奉仕のため、また聖なる装束のために、主への奉納物を持って来た。

出 35：22 進んで献げる心のある者はみな、男も女も、飾り輪、耳輪、指輪、首飾り、すべての金の飾り物を持って来た。金の奉納物を主に献げる者はみな、そのようにした。

出 35：25～26 また、心に知恵ある女もみな、自分の手で紡ぎ、その紡いだ青、紫、緋色の撚り糸、それに亜麻布を持って来た。心を動かされ、知恵を用いたいと思った女たちはみな、やぎの毛を紡いだ。

出 35：27～28 部族の長たちは、エポデと胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石を持って来た。また、ともしび、注ぎの油のため、また香りの高い香のために、香料と油を持って来た。

出 35：29 イスラエルの子らは男も女もみな、主がモーセを通して行うように命じられたすべての仕事のために、心から進んで献げたのであり、それを進んで献げるものとして主に持って来た。

5. 製作チームとそのリーダーたちについて（出 35：30～36：2）

（シナイ山上でモーセに命じられた内容と同じ 出 31：1～11）

出 35：30～33 モーセはイスラエルの子らに言った。「見よ。主は、ユダ部族の、フルの子ウリの子ベツアルエルを名指して召し、彼に、知恵と英知と知識とあらゆる仕事において、神の霊を満たされた。それは、彼が金や銀や青銅の細工に意匠を凝らし、はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、意匠を凝らす仕事をするためである。

出 35：34～35 また、彼の心に人を教える力をお与えになった。彼と、ダン部族の

アヒサマクの子オホリアブに、そのようにされた。主は彼らをすぐれた知恵で満たされた。それは彼らが、あらゆる仕事と巧みな設計をなす者として、彫刻をする者、設計する者、青、紫、緋色の撚り糸と亜麻布で刺繍する者、また機織りをする者の仕事を成し遂げるためである。」

出 36：2 モーセは、ベツアルエルとオホリアブ、および主が心に知恵を授けられた、すべて心に知恵ある者、またその仕事をするために進み出ようと、心を動かされた者をみな呼び寄せた。

6. 製作開始と材料の充足（出 36：3～7）

出 36：3 彼らは、聖所を造る奉仕の仕事のためにイスラエルの子らが持って来たすべての奉納物を、モーセから受け取った。しかしイスラエルの子らは、なおも朝ごとに、進んで献げるものを彼のところに持って来た。

出 36：4～5 そこで、聖所のすべての仕事をしてきた知恵のある者はみな、それぞれ自分がしていた仕事から離れてやって来て、モーセに告げて言った。「民は何度も持って来ます。主がせよと命じられた仕事のためには、あり余るほどのことです。」

出 36：6～7 それでモーセは命じて、宿営中に告げ知らせた。「男も女も、聖所の奉納物のためにこれ以上の仕事を行わないように。」こうして民は持ってくるのをやめた。手持ちの材料は、すべての仕事をするのに十分であり、あり余るほどであった。

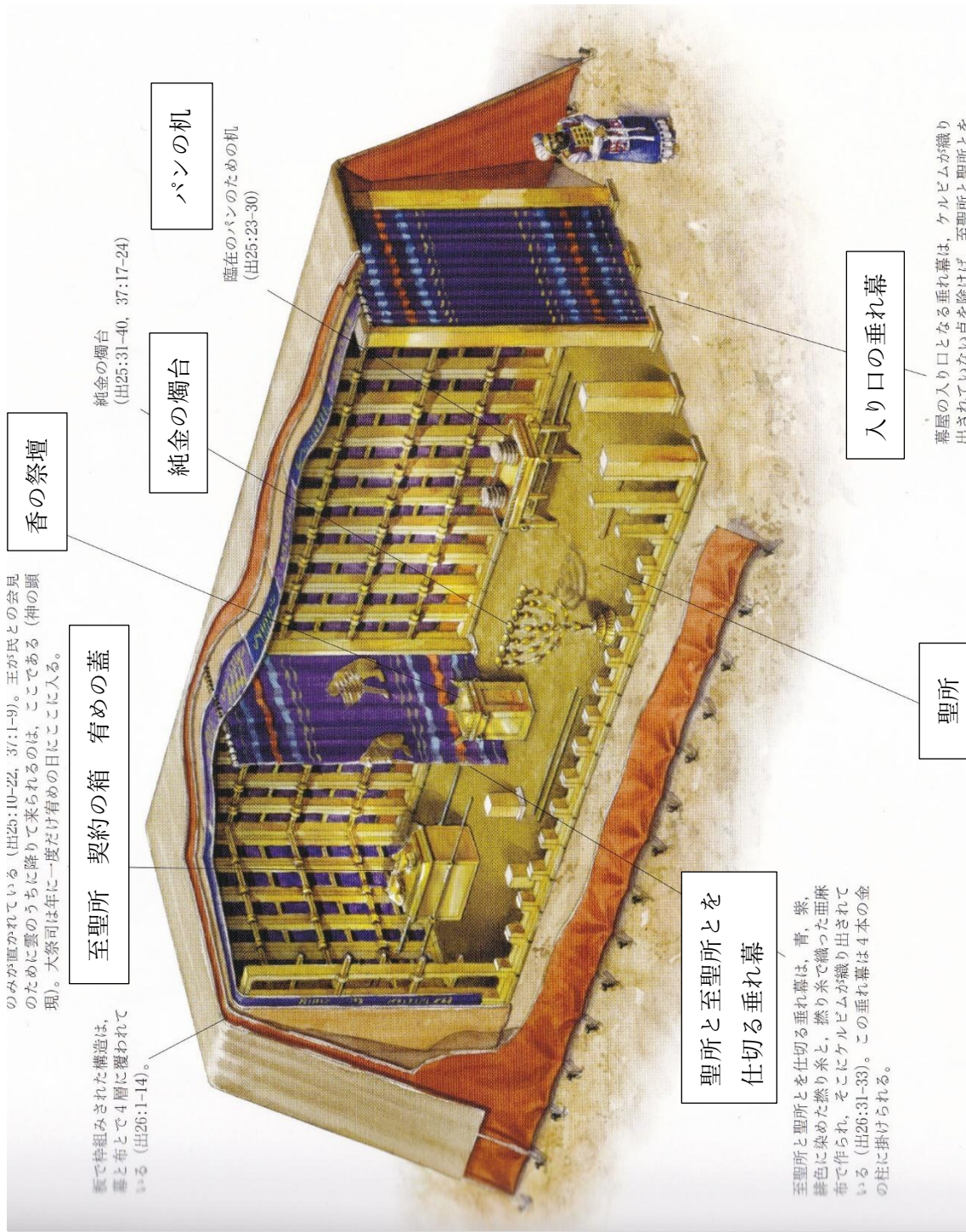
7. 幕屋の製作（出 36：8～39：41）

（シナイ山上でモーセに命じられた作り方のとおり 出 25：8～28章、30章）

8. 製作完了（出 39：42～43）

出 39：42～43 イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに、そのとおりに、すべての奉仕を行った。モーセがすべての仕事を見ると、彼らは、見よ、主が命じられたとおりに行っていた。そこでモーセは彼らを祝福した。

- きょうの箇所から、献金・献品の原則は、次の3つのうち、どれでしょうか？
- A. 一人あたりいくら
 - B. 収入や財産に応じていくら
 - C. 心を動かされた人が、自分で決めて、それを進んで献げる。名前は出さない



出典：コンサイス聖書歴史地図、デイビット・P・バレット著、いのちのことば社